

# 日本の救急医療学ぶ

吉野川市でカンボジア医師



渡部医師⑤から救急医療について学ぶ(左から)ヘンさんとトゥリーさん—吉野川市山川町のさくら診療所

日本の救急医療技術を学ぼうと来日しているカンボジアの医師2人が22日、吉野川市山川町前川のさくら診療所で研修を受けた。

2人は、首都プノンペン市保健局のトゥリー・プロスさん(41)と、同市立病院のヘン・ロンさん(36)。

診療所の渡部豪医師(41)から救急診療の流れを教わったほか、心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使い方、

肺から漏れた空気が心臓を圧迫する「緊張性気胸」の対処法も学んだ。

2人は「カンボジアでは交通事故が増えており、救急医療の重要性が高まっている。帰国後は学んだことをしっかり生かしたい」と話した。

研修は、2007年か

ら同国の医療支援を行っている吉野川市のNPO法人TICOと高松市の公益社団法人セカンドハンドの主催。19日に来日した2人は香川県立中央病院などでも研修を受け、6月3日に帰国する。

(秋月悠)